

ブラジル国立経済社会開発銀行 (BNDES) セミナー

—— ブラジル経済の成長：可能性と機会 ——

2010年7月21日、ブラジル国立経済社会開発銀行 (BNDES : Banco Nacional Desenvolvimento Economico e Social) および駐日ブラジル大使館、日本政策金融公庫 国際協力銀行 (JBIC) および海外投融資情報財団 (JOI) は標記セミナーを開催いたしました。本セミナーでは、ブラジル国内で長期融資を実施する唯一かつ最大の政府系金融機関であるBNDESから、ブラジル経済の潜在成長性とBNDESの果たす役割についてご紹介いただくとともに、JBICからはこれまでのブラジルでの取り組みやBNDESとの協調の可能性等について説明をいただきました。本稿では当日の内容からルシアノ・コウチーニョBNDES総裁の講演概要をピックアップしてお届けします。

なお、以下JOIウェブサイトで当日の全配布資料を公開していますのでご覧ください (<http://www.joi.or.jp/modules/seminarreport/index.php?page=article&storyid=140>)。 (文責：当財団)

ブラジル経済の成長とBNDESが果たす役割

ブラジル国立経済社会開発銀行 (BNDES) 総裁
ルシアノ・コウチーニョ

2年前、経団連でブラジル経済の展望について講演を行ったが、当時はちょうど世界金融危機に突入したところで、確実なシナリオなどはどこにも存在しなかった。しかし、そのときすでに申し上げていたとおり、ブラジルは世界金融危機を克服できる力を保持している。ブラジル経済は実際、四半期ベースで2期にわたる低迷の後にプラス成長へと転じ、新たな成長の軌道にあるといえよう。

本日はブラジルの資産と機会についてご紹介したい。

ブラジルの資産

1 国際的な動向

ブラジルの重要な資産は、世界金融危機を克服できる能力と資質である。本日はまず、グローバル・シナリオのアウトラインと、このグローバル・シナリオがブラジルに提示する課題について述べていきたい。大使からも先に言及があったとおり、世界経済の回復は今や新しい成長の「極」によりけん引されており、新興国経済が主導役となっている。今後も先進国経済と比較して新興国

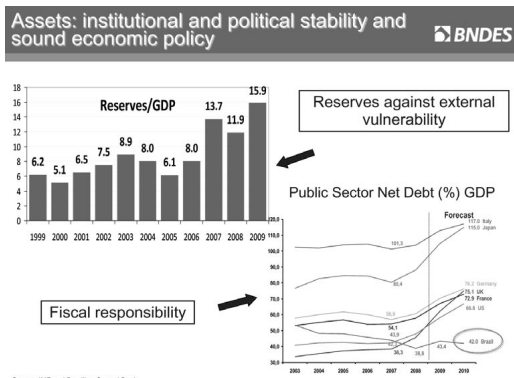
経済が高い成長力をみせると予測されており、この意味ではデカップリングが起きているといえよう。さて、今後20年の傾向として、グローバル・エコノミーのリーダー役は新興国・途上国経済であり、その結果、グローバル・シナリオにおける新興国経済の存在感と重要性、比重がますます高まるだろう。一方で、もうひとつ強調すべきマクロ・トレンドは気候変動だ。気候変動はすべての社会共同体に大きな課題を提示しており、すべての国、そしてブラジルにとっても、多大な影響を及ぼすものである。グローバル気候変動の問題解決にブラジル政府は強くコミットしている点、ここで申し上げたい。

さらに、グローバル経済において、これまで経済活動の活発ではなかったエリアが活性化することによって、熾烈な競争が発生する、この点ももうひとつの重要な未来像である。多くの経済圏で競争、特に価格競争が激化しており、ブラジルにとっても大きな脅威を与えている。このような競争の激化、気候変動に関しては、危機対策で加速する技術革新という側面も重要になってくる。多くの先進国経済、さらにはオバマ大統領下の米国政権も、環境に配慮した研究開発 (R&D) とイノベーションの促進を政策決定した。これも重要な未来のトレンドだ。

また、開発促進だけでなく、国益保護に対しても政府が積極的に関与していくというこの点を、保護主義的な措置がとられ得るリスクという懸念も含めて、考えていかななくてはならないだろう。将来的に念頭においておくべき課題としてこうした点があげられよう。

2 政治・制度的な安定と確かな経済政策

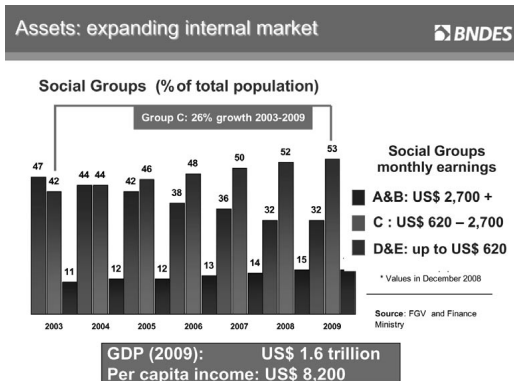
ブラジルの資産とは、まず、民主的なシステムに基づく政治的、制度的な安定がある。強固な経済ファンダメンタルズと、特に、外貨準備高は対GDP比16%で2600億ドル規模と、国際収支上十分なクッションを成している。また、公的債務の削減においても、ブラジルの強みをみてとることができる。危機時の景気対策で日本のほか全先進国経済の財政出動が拡大したのとは対照的に、ブラジル財政に対する経済危機の影響は相対的に軽微で、純公的債務は対GDP比でみるとすでに減少基調にある。ブラジル公的部門における強い財政は、ブラジルの未来におけるもうひとつの強固な礎といえる。



出所：当日配布資料（以下同）

3 国内市場の拡大

3つめのブラジルの強みは国内市場である。ブラジルの国内市場は、低所得者層に有利な所得分配の好循環によって改善と成長を遂げている。ブラジルでCクラスとよばれる中間層（月収620～2700ドル）の厚みは2009年時に53%と2003年時の42%から増加した一方で、この所



得クラス以下の低所得者層（D、Eクラス）が占める割合は縮小傾向にある。つまり、中低所得者層の増加と所得分配の改善で、社会的な上方移行が生まれるプロセスが存在している。これがブラジル社会と経済成長にポジティブな影響を与えている。

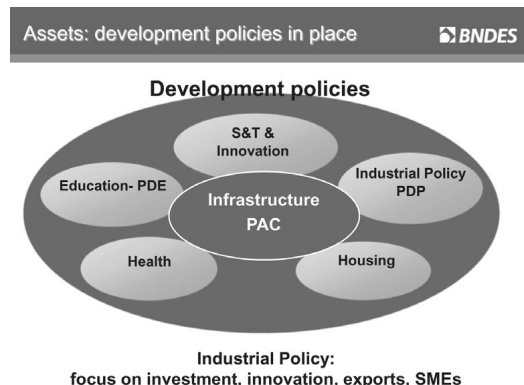
4 危機対応の奏功

加えて、経済システムの規制に関して総合的な手腕を発揮する強い中央銀行の存在もブラジルの強みとなっている。中銀、中央監督当局、規制という機能がひとつの組織に存在し、経済システムの規制に理想的なかたちとなっている。危機対応でも流動性供給で中銀が積極的な対策を講じた。景気回復に伴い危機対応で提供されたこの流動性ファシリティはすでに終了されている。ブラジル財務省のとった対応も重要だ。ブラジル財務省による耐久財減税措置による消費刺激策は、消費者に対する大きな効果を得て、景気回復に貢献した。

もうひとつ、公的金融機関による信用拡大も大切だ。重要なのは、民間金融機関が信用収縮に陥ったとき、公的金融機関は信用拡大に動いたという点であり、特に、2008年12月のリーマン・ショック時点以降の信用残高の増分37%は本行によるものだ。ブラジルにおける投資活動の下支えに関して本行が非常に効果的に貢献できた点であるといえよう。これに加えて本行では財務省と共同で投資決定のインセンティブを提供し、ブラジル企業の初期段階での投資決定を促進するという当初目的に成功している。

5 適切な開発政策

BNDESは、ルラ大統領のガイダンス下で、科学技術省、大統領首席顧問（Chief of Staff）直轄の住宅イニシアチブ、健康省、教育省と政策連携を行い、ルラ大統領2期目の初期に導入された大規模インフラ整備計画PACイニシアチブを、景気対策のための施策として強化した。すべての産業政策、そして投資、イノベーション、貿易など各省庁間での施策連携が、危機克服、そしてブラジルの将来に前向きな観測をもたらすために重要である。





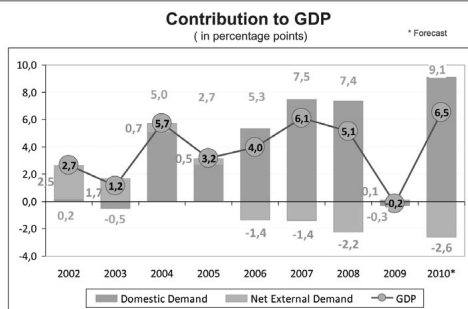
成長シナリオと課題

1 国内市場2004～08年の間の成長サイクルが2010年の回復を説明

国内情勢をみると、特に近年の回復において国内市場が重要な役割を果たしている。2002年、2003年当時のデータからは、輸出がブラジルの成長をけん引していたことがうかがえる。

しかし、国内市場は次第に重要性を高めており、最近ではブラジル経済の回復の鍵となったのは国内市場であった。ブラジル経済はそのファンダメンタルズの強さもあり、成長を続けている。2009年危機での急激な落ち込みはみられたものの、回復の基調は力強い。2010年の成長率は当初の6.5%から上方修正され、7.2%と予測されている。

Domestic market explains 2004-2008 growth cycle and 2010 recovery BNDES



2 今後5年間で年平均5%成長を予測

こうした状況を踏まえて、われわれは現在、今後5年間の成長率を年平均5～5.5%と予測している。また、この数値にはこれから述べる投資パフォーマンスの貢献も加味されている。

3 投資がけん引する高成長

健全な成長にとって投資のパフォーマンスは重要な鍵となる。投資が成長をけん引しなければ、供給の創出が停止する。安定と成長を調和させるためには成長が投資によってけん引されることが不可欠であり、迅速な投資の増加は需要に先立ち財・サービスの供給を可能にすることで、価格安定をもたらすことができる。

危機前のブラジルは投資パフォーマンスが大きく改善して、実際に投資の総計はGDP比で20%に達しようというところだった。しかし危機発生で投資が落ち込んだことで、われわれは投資の低迷を防ぐため思い切った対策をとることとした。投資の減少に歯止めをかけることは開発銀行の使命でもあり、1年以内に投資を減少から増

加に反転させることができた。ブラジル経済のファンダメンタルズ、新事業育成制度への信頼は高く、現在、決定される投資の額はますます拡大している。

4 多種多様な投資計画

投資決定の迅速化に関しては、BNDESが特別クレジットラインとして供与する投資インセンティブが効果をあげている。半期ごとにBNDESが行っている調査予測では、2010年の投資貯蓄総計はGDP比で約19%、今後数年の間では22～23%、もしくはそれ以上への増加を予測している。ブラジルで長期信用を提供する主要機関であるBNDESは、民間部門の投資計画に関して信頼できる情報とセクター・企業間の比較サンプルを保持している。

ここで2009年危機の年は除外して、前後の4年間、2005～08年と2010～13年で、実績と展望を比較してみよう。ブラジル資本形成の半分を対象とする統計サンプルでみると、各種投資計画の総計は2005～08年の間は4760億ドルであるのに対し、2010～13年の間では7360億ドルに増加すると予測している。ここから年平均の成長率を予測すると、全体ではおよそ9%、うち産業部門が約12%となる。コンフィンデンスが高く投資が活発化しているため、好結果の蓄積がさらなる投資決定をもたらすという観測で、この数値は今後さらに高くなる可能性もある。

こういった投資パフォーマンスの改善に加え、インフラ分野などでも多数の投資機会が存在する。特筆すべきはまずブラジル新幹線計画で、これは日本企業には関心の高いプロジェクトだろう。石油・ガスなどの産業部門でもブラジル国営石油会社ペトロブラスが石油・ガス開発に旺盛な意欲をもっている。また、低所得者層向け住宅の供給拡大をめざす住宅整備計画も重要だ。このように旺盛な投資意欲の存在からも、今後のブラジル経済の確かな成長と安定性がうかがえよう。

... as investment plans are robust and rising BNDES

Sectors	US\$ billion		Growth Implicit p.a. 2010-13 (%)
	2005-8 (observed)	2010-13 (forecast)	
Infrastructure	111	172	9.3
Industry	174	305	11.8
Housing	191	258	6.3
Total	476	736	9.1

Source: BNDES Forecast

Based on Corporate Investment Plans from 13 sectors - Last Forecast: April 2010

Sample: 10% of GDP; 52% of Gross Fixed Capital Investment; 60% of Manufacturing investments; 90% of Infrastructure investments

Immediate opportunity: São Paulo - Rio de Janeiro High Speed Train

• Inv: US\$ 19 billion - BNDES financing: US\$ 10 bn - Exim: US\$ 3.5 bn

• Call to bid: from 7/14/2010 to 11/29/2010

• Emphasis: development of local capacity and transfer of technology

5 イノベーションの力を武器に

ここでブラジルの課題について述べていきたい。ブラ

ジルにとってひとつ重要な課題は、民間セクターのイノベーションの向上だ。ブラジルの研究開発（R&D）投資は先進国平均をかなり下回っており、途上国数カ国に対しても後れをとっている。ブラジルの民間セクターによるR&D投資はGDP比0.6%を占めるにすぎず、これは非常に低い。

ルラ大統領自身、イノベーション政策の推進には積極的で、今後数カ月のわれわれの主要な目標のひとつはブラジルのR&D支出倍増だ。先進国との比較でいえば日本のイノベーション投資はGDP比2.5%であり、中国も現在GDPの1.6%をイノベーション投資に振り向けている。技術革新が加速するなか、ブラジルが出遅れないためにも、今後この分野でのパフォーマンスを改善していく必要がある。

6 正規雇用創出の流れを維持

もうひとつの課題は、所得分配の好循環の維持である。貧困層への所得移転を進めることももちろん大切だが、それだけではなくブラジル経済における強力な雇用創出の力を継続させることが大切だ。ブラジル経済は2004～08年の間、年平均でおよそ2万人弱の正規雇用を生み出した。ブラジルの労働力からすればこの雇用創出は非常に重要である。世界的な不況だった危機さなかの2009年においても、下半期で約1万人の雇用が創出されている。これは国内主導型の成長という好循環をブラジル経済が維持するために大変重要な点である。2010年については最低2万人の新規雇用が予測されている。

ただし、大切な課題は将来的にもこの傾向が継続されることであり、加えて、雇用される側の人材育成も重要な課題となってくる。資格のある労働者やエンジニアが不足しており、教育と人材育成に関する強固な政策が必要とされている。

以上、課題とされる点について何点か述べてきたが、持続可能なイノベーションについては、この後ブラジルのイノベーション政策とBNDESの役割についてプレゼンテーションが行われるのでそちらもご覧いただきたい。

まとめ

1 2010～15年平均成長率5%のけん引役

上述のとおり、将来的にブラジル経済の原動力となるのは国内市場であり、台頭する中間層は旺盛な消費欲でブラジルの経済成長に貢献するだろう。力強い投資パフォーマンスと投資計画が存在し、特にペトロプラスの年

間450億ドル規模という石油・ガス投資計画は特記すべき計画である。エネルギー部門では、政府の推進する大規模水力・小規模水力、ソーラー、風力などの再生可能エネルギー、そしてバイオ燃料とバイオ発電の分野で、重要かつ大きな機会がある。

ブラジルのアグリビジネスはアジアの拡大する需要を満たし、中国だけでなくアジア全域における穀物、肉類やその他の食糧需要に応えることができる。また、ブラジルの農業は生産性向上と生産の拡大に大きな余地があり、高い競争力を誇っている。ブラジルのアグリビジネス企業は世界に進出し、グローバル展開でブラジルの発展に貢献することを期待している。

また、物流網、鉄道、高速、港湾、空港など重要インフラ分野の投資促進が急務とされている。ブラジル政府と民間セクターはこの分野で大きな投資計画がある。

最後に、今後開催される大規模イベント、特に2014年はワールドカップの開催、そしてその後、2016年にはオリンピックの開催がある。ブラジル・オリンピックに向けての投資誘致は、また大規模なものとなるだろう。こうしたイベントは大きな投資の機会であり、また、貿易の機会についてもいっそうの拡大の余地があるといえよう。

2 政策立案の「カイゼン」アプローチ

その他の課題として、われわれは長期計画における政府の企画能力をさらに改善していく必要がある。この点はすでに改善の途にあるとはいえるが、次の政権ではますますの向上が求められるだろう。国内貯蓄の改善という点についても、増加する投資のファイナンスのため、そして危機時には不安定になりやすい海外資金に過剰に依存しないために重要だ。長期ファイナンスの補完という視点からは、国内貯蓄をベースとする金融産業の育成が大切だ。

現在、BNDESは長期信用を供与する国内唯一の機関であり、この任に対する負担は大きい。投資のファイナンスでBNDESとともにこの責務を分担できる民間金融の存在、その育成およびパフォーマンス改善が必要だ。それに伴って適切な保証、保険の仕組み、プロジェクト・ファイナンスなど複雑なファイナンスの仕組みも求められる。この点は特に国際協力銀行（JBIC）と日本貿易保険（NEXI）との協力関係が重要となる分野といえよう。今回の訪日では、同分野におけるいっそうの協力関係の構築が目的のひとつともなっている。

イノベーションの重要性についてはすでに述べたが、申し上げたとおり人材育成の重要性も大切である。ブラジルはよりよい雇用が必要で、よりよい雇用のためにはさらなる人材育成が必要だ。人材育成の進展で労働者と



ブラジル国立経済社会開発銀行（BNDES）セミナー

エンジニアの資格取得が進み、よりよい業績をもたらすことができる。こうした点は今後のブラジルの主な課題である。

最後に、今年2010年は、日本人のブラジル移住100周年記念の翌年であり、大変重要な年である。20世紀、ブラジルの発展に日本は多大な貢献を残した。1960年代、70年代にかけて、日本の開発支援はさまざまな重要セクターに及び、鉱業、農業、金属、紙パルプなどのセクターは日本からの投資に直接的につながっている。日本は

ブラジルの発展に非常にプラスの貢献を行ってきた。そして危機がやってきた。ブラジルが危機の時期を通り抜け、そしてその後、日本もまた長い不景気の時期へと突入した。しかし今、ブラジル経済の回復、そして日本経済の成熟と国内貯蓄率の高さに鑑みれば、われわれは新たなパートナーシップの構築が可能だと考えている。ブラジルと日本は相互利益に基づき、未来に向けてこの歴史的なパートナーシップを、新たに構築できるのではないかと考えている。

〔質疑応答〕

——「政府による積極的な国益の保護」について。エタノールなど国際的に存在感の大きい部門がある一方で、医薬など、そうではない部門もある。ブラジル産業の国際化と国益との関係とは。

■ BNDESの機能のひとつとして、スケールメリットの重要なセクターでは業界再編を後押しするということがある。20年に及ぶ経済安定化の努力やその後の危機などで、ブラジル企業は規模が小さく、競争力・成長性の面でいってもキャッチアップが必要だ。M&A案件の支援は3年ほど行っているが、いくつかのセクターは早くも結果が出ている。紙パルプ、石油化学、ITのほか、医薬業界の再編促進にも関心を寄せている。ただ民間企業間の買収に際して強制するということはないので、コミュニケーションをとりつつブラジル社会の総意・要請であるとして賛同を得られるよう努めている。開発金融機関による業界再編の促進というのは一般的ではないが、ブラジルではその必要性が認められ本行が行っている。また、競争が厳しいセクターの場合、無秩序な国際化で国益を損なわないよう、企業の保護、支援も提供している。支援対象企業はだれでもというわけではなく、上場へのコミットメントと企業統治面、マネジメント面で高い基準をクリアする必要がある。

——産業政策（PDP：生産性開発政策）について、1990年代のブラジル産業政策の主な柱は自由化だったが、今日の産業政策で支柱となるのは何か。

■ ブラジルの産業は多様であり、産業政策は選別的でなく包括的なものとなる。柱は大きく分けて4つ、1つめはブラジルが高い競争力を保持しているセクターのリーダー育成だ。具体的には紙パルプ、石油化学、食肉、鉱業等での輸出パフォーマンス向上、国際化、業界再編促進である。これらのブラジル企業はすでにグローバルに活躍しているが、今後も環境面での持続可能性と社会責任を重視しながらの、よりいっそうのイノベーションが求められている。2つめの柱は、ブラジルにとって重要となるセクターの競争力向上だ。たとえば技術革新の進む自動車産業など、重要産業でかつブラジルがグローバル競争に遅れている分野である。この柱に分類されるのはほかに20ほどある。繊維、製靴、建設、また第3世代石油化学、そして分野を問わず資本財なども含まれている。さらにIT、製薬、バイオとその関連資本財における先端技術関連分野も競争力強化の優先項目となる。3つめの柱は先進的かつ分野横断的なセクター、たとえばエネルギー産業、航空宇宙産業など科学技術省との政策連携を要するもの。4つめは大統領による政治的な重点項目だ。南米とアフリカの連合協議や国内南部・北東部間の格差是正についてなど、水平的な政治面での優先政策となる。

おわりに

先の前野氏による講演でも述べられたとおり、ブラジルとJBICの優先事項は一致しており、特に天然資源、あるいは資源関連セクターでは、日本のニーズもあって新規に有益な投資がなされ得るという点、賛同したい。農業、食糧生産、食肉、紙パルプ、金属、鉄鉱石等々への新しい直接投資の波、投資の深化、そして金融面での日

本の支援は、相互に利益あるものといえ、双方の経済にとりこの資源関連セクターは補完的な関係にあるといえる。とはいえこれは格別目新しいことではなく、これまでのブラジルから日本、日本からブラジルへという相互の貢献を新たな観点から最新化するものであり、今後ともに活用してゆくべきものである。



ブラジル国立経済社会開発銀行（BNDES）セミナー

ブラジルにとってはもうひとつ、インフラという優先事項がある。日本はブラジルのインフラ分野の投資サイクルに対して、重要かつ多大な貢献が可能である。通信や港湾その他日本の得意とする分野のみならず、都市部の社会インフラという側面においても日本はブラジルの発展に大きな貢献をすることができると同時にまた、そのための機会は多数存在している。ブラジル新幹線は重要で華やかな投資機会だが、より広範なところに視野を広げれば、下水処理、廃棄物処理システムなどで実に多くの投資が進行中である。

また、JBICのグリーン・イニシアチブについても祝意を述べたい。これは持続可能なバンク・ポリシーの強化というBNDESのイニシアチブと非常に軌を一にするものだ。この環境という分野では、プロジェクトへの支援のみならず、新技術開発、省エネ、BNDES Amazon Fundによる持続可能なアマゾン流域開発に加えて、ブラジル都市部の環境に配慮した開発などの大きな課題が存在する。特に、都市部のごみ・廃棄物処理、下水処理、交通システム整備の問題は非常に大きな課題である。つまり、こうしたグリーン投資はブラジルにおいて巨大なフロンティア、未踏の地を形成しているといえる。これらフロンティアの存在に加えて、ブラジルのエネルギー需要に鑑みれば、再生可能エネルギー、大規模水力、小規模水力、風力、ソーラーなど、非常にクリーンなエネルギー構成のブラジルにおいて、日本がリーダーシップとパートナーシップを発揮し得るような、さまざまな開発投資の機会が存在している。こうした面も相互利益を補完できる分野だと考えている。

日伯協力の分野としては、先に述べた耐久消費財分野、つまり自動車セクターもあげることができよう。自動車セクターではすでに日本はブラジルで成功を収めているが、この分野は現在技術革新の途にあり、時代は電気自動車、もしくはハイブリッド電気自動車へとパラダイムの変化が進んでいる。日本企業にとっては新しいビジョンをもってブラジルにフォーカスすることにより市場シェアを獲得する好機であり、ブラジルをプラットフォームとして他の新興国の開拓をめざすことができる。これは日伯協力の最新化に当たって検討すべき、新たなアジェンダであるといえよう。

消費者向け家電でいえば、アジアの競合相手にリーダーの座を明け渡した日本は地位回復の好機にある。日本のデジタルテレビ方式採用でブラジルが重要な尽力を行ったことで、日本はブラジル国内のみならず南米全域という巨大市場への足がかりができた。これは消費者向けテレビなどの家電分野で再び日本がリーダーとなるチャンスであり、これもアジェンダとして加えるべき点となる。

さらに2つの重要な分野で日伯パートナーシップのいっそうの奏功が期待できる。ひとつは生産設備／資本財と、産業自動化の分野である。日本の産業自動化は先進的で、ブラジル製造業の生産性向上と自動化促進のニーズに鑑みれば、同分野におけるブラジル市場への直接投資の誘引および日本企業の地位向上について検討を深めるべきと考える。

もうひとつは情報技術の分野であり、当該分野での協力もさらなる課題となっている。ブラジルの観点からいえば、日本にとってブラジルが単なる原材料・市況品の供給元という見方はすでに時代遅れである。ハイテク技術分野からこなれた技術の分野、そして今まさに技術革新を遂げようとしている自動車などの分野において、われわれは日本にパートナーとなってほしいと希望している。ともに新しいフロンティアを見据えたうえで、われわれは相互投資のさらなる強化だけでなく、質的な深化についても、新しい観点に基づく新たなパートナーシップ構築のときを迎えている。

グローバルに成長を遂げたブラジル企業が日本に投資して雇用を生む、そしてその逆に日本からの投資がブラジルの発展に質的な貢献をする、この両方をわれわれは期待している。今、日本に対して提示したい点は、新しい課題と新しい志^{こころざし}に基づく、新たなスタンダードによる協力関係が求められているという点だ。この新しい志を念頭におきながら、双方の協力関係について前向きに考えてゆくべきだと考えている。

本日は、ブラジルの成長機会を紹介できる、このような機会を得られたことに感謝したい。日本の機関とBNDESとの間には長い協力の歴史があり、これは建設的な協力関係の好例であるといえよう。新たな協力の時代に向けて、ともに備えてゆきたいと考えている。 ●

当セミナーの配布資料をJOIウェブサイトからご覧いただけます。

Home > セミナー > 過去セミナーの概要と配布資料 > 2010-07-21 ブラジル国立経済社会開発銀行（BNDES）セミナー：ブラジル経済の成長：可能性と機会